

凡 例

- (1) 各項目に付した整理番号 <001-1-01-m> について。最初の「001」は号数(第1号)、次の「1」は面数、その後の「01」はその面における記事番号(左→右, 上→下)である。また「m」はモンゴル文字, 「g」はモンゴル文字のローマ字転写, 「y」は日本語訳である。
- (2) 「蒙古」は「モンゴル」とする。また「満洲」を用い「満州」としない。
- (3) 「満蒙」「日蒙」「蒙地」「蒙文」「蒙民」など「蒙」字が他の漢字と併用され、かつ当時の日本語の用例として常用されていると判断しうるものはそのまま用いる。「支那」も同じ(「中国」としない)。
- (4) モンゴルの地名(盟や旗など)は、カタカナ=漢字で表記する。カタカナ表記については宮脇淳子『モンゴルの歴史』(刀水書房 2002)に準拠する。本文でもちいたカタカナ表記と漢字表記の対照は下記のとおり。

アルタンエメール	阿拉坦額莫勒	トメト	土默特
アルホルチン	阿魯科爾沁	ドルベト	杜爾伯特
ウジウムチン	烏珠穆沁	ドルベト	四子王
ウラーンチャブ	烏蘭察布	ドロン	多倫
エルグネ	額爾克納	ドロンノール・フフスム	多倫諾爾彙宗寺
オーハン	敖漢	ナイマン	奈曼
オンニュート	翁牛特	ハイラル	海拉爾
ガンジーガ	甘旗卡	バーリン	巴林
ガンジュル	甘珠爾	バヤンタラ	巴彥塔拉
ゴルロス	郭爾羅斯	ハラチン	喀喇沁
ジャライト	扎賚特	ハルビン	哈爾濱
ジャランアイル	扎蘭屯	フフホト	厚和豪特
ジャルト	扎魯特	フレー	庫倫
シリーンゴル	錫林郭勒	ヘシグテン	克什克騰
シン・バルガ	新巴爾虎	ホーチン・バルガ	陳巴爾虎
ソロン	索倫	ホルチン	科爾沁
チチハル	齊齊哈爾	ホロンブイル	呼倫貝爾

[付記]

本索引における各項目の整理・監修は、田中とナランゲレル先生(中国・内モンゴル大学)、ウルジージャルガル氏(新潟産業大学)および堤一昭先生(大阪大学)があたった。また周太平先生(中国・内モンゴル大学)、都馬バイカル先生(桜美林大学)、ウリジバヤル氏(新潟産業大学)からの確かな助言を得た。